

春の先頭争い

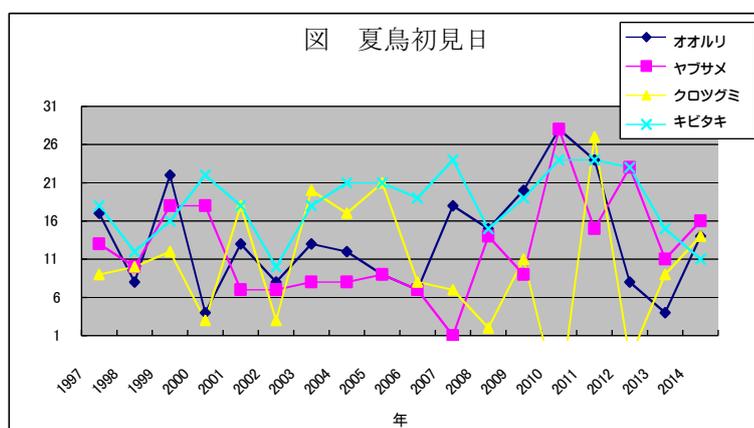
1. 打吹山へ来る夏鳥の順番

冬鳥で打吹山に遅くまで残るのはツグミの仲間のシロハラですが、日本で繁殖する夏鳥の早いものは3月下旬に渡ってきます。これらには、2つのグループがあります。ひとつは打吹山で繁殖する種、もうひとつはさらに北方へ、あるいは山地へ移動して繁殖する種です。いずれも雄が最初に渡来してナワバリを作り、そこに雌がくるとことになるので、到着した雄はさえずりを始めます。したがって到着がよく分るのです。

鳥が季節を知るのは日照時間の長さといわれていますので、太陽の運行により毎年同じになるはずですが、グラフのように年によってかなりのずれがあります。毎朝歩いて聞いていますので、遭遇の問題より、気象の影響などがかなりあるように感じます。オオルリ、クロツグミ、キビタキは声も大きくわかりやすいのですが、ヤブ



サンショウクイ



サメは虫の鳴くような小さな声でわかりにくい鳥です。ヤブサメ、キビタキ、サンショウクイは打吹山で繁殖しますので、7月まで声を聞くことができます。“馬のいななく”のようなコマドリや、“焼酎一杯グイー”と鳴くセンダイムシクイは、20日前後の1週間くらいしか留まりません。雄が盛んにさえずる4月は、鳴き声を覚える良い時期です。

2. セントウソウ

わりと日が当たる遊歩道脇の湿り気がやや多い場所で、地面に張り付いたような株から白い小さな花がまとまり、10～20cmの花穂(複散形花序という)を数本上げるためよく目立ちます。セリ科に共通した花型ですが、セリは7月、ハナウドは5月に開花するのに先駆けて、セントウソウは4月の開花です。一番早いので先頭草というわけではないようで、名前の由来は不明です。天皇を退位した上皇



セントウソウ



セリ科3種の葉 (左からヤブニンジン・セントウソウ・ヤブジラミ)

が住む仙洞御所の“仙洞”を当てる例もあります。ひっそりと陰に生育するというよりそれなりの光を好むようで、湿気のある山麓の林縁が生育地です。

セリ科に共通の3回羽状複葉で、雪どけとともに葉を展開していくとき、同じ場所にヤブニンジンが芽を出しています。開花時期になると草丈の違いがはっきりするのですが、2～3月での区別は小葉の切れ込みが細かく、緑の濃いものがセントウソウです。